

クビアカツヤカミキリによる 被害樹木ソメイヨシノの防除作業方法



一般財団法人富田林市公園緑化協会

リバイブを使った樹幹注入の方法



樹幹注入作業で使う器具と材料



事前調査をおこない、樹幹注入をおこなう対象樹木の
台帳・位置図・現況写真の記録をおこなう



クビアカツヤカミキリの
幼虫に被害をうけている
ソメイヨシノ



クビアカツヤカミキリの幼虫による被害を受けていないソメイヨシノや、根元付近に全く木くず、フラスがないソメイヨシノや、被害を受けていても、根元付近に少量の木くず、フラスがあるものや、幹に樹脂の塊が数カ所確認できる程度のソメイヨシノは、幹のほとんどが健全であるため、薬剤の樹幹注入が可能です。

クビアカツヤカミキリの幼虫による被害を受けているソメイヨシノで、枝先の枯れがあるなど樹勢が衰退傾向にあっても、幹の食害範囲が40%程度までの状態であれば、幹の健全な部分を探して、薬剤の樹幹注入が、可能です。

クビアカツヤカミキリの幼虫による被害の程度が甚大なソメイヨシノは、幹のほとんどが食害されていたり、樹勢が衰退して、大枝まで枯れ始めた、枯死に近い状態の樹木は、幹の健全な部分がほぼ無いと考えられるため、薬剤の樹幹注入をすることはできないと判断し、樹幹注入の対象樹木から除外し、伐採を検討するようにする。



樹幹注入作業は、天候の良い日におこないます。

樹幹注入対象の樹木の全体を確認します。



クビアカツヤカミキリの幼虫による被害の有無や、被害の状況を確認します。



ソメイヨシノの根元幹周を、計測し、樹幹注入する薬剤のアンプルの本数を決定します。



薬剤リバイブの専用テープ



専用テープに表示の最大本数を適用する。

樹幹注入するアンプルを用意します。



次に電動ドリルで穴を開ける位置を決めます。



幹を木づちでたたきながら、樹皮の生きている部分と、枯れている部分を、音と振動で確認します。

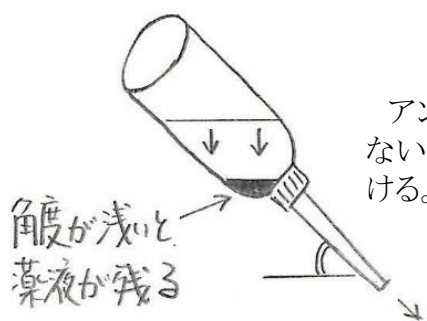


電動ドリルで穴をあけます。インパクトはダメです。

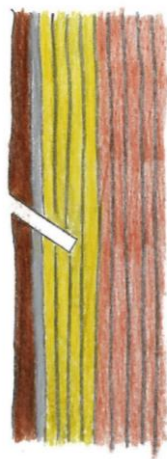
穴を開ける位置は、根株に限りなく近い、樹皮の生きている部分で、10～15cm間隔で、穴をあけます。



木工用ドリル刃 直径6mm



アンプル内の薬液が、溜まって残ることのないように、角度を考えて、ドリルで穴をあける。



穴をあける角度は水平より、50～55度、深さは6～7cmの穴をあけます。





アンプルのフタを取り外して、
薬液がこぼれないように、丁寧に穴に
アンプルの先を差し込みます。



樹木の樹皮と材質部にアンプルが
密着するように、強めに押し込みま
す。



アンプルを差し込んだら、アンプルのお尻を針で穴をあけます。

アンプルの先に空気が、たまっている場合があるので、アンプルを軽く、コンコンと2, 3回たたいて、気泡が出るのを確認します。





この要領で、決めた本数を樹幹注入していきます。



ラベルを取り付けます。



ソメイヨシノの個体差によって、薬液の吸収する速度が違います。

薬液が吸収されるまで、早いものでは30分、遅いものでは2時間以上かかる場合があります。

30分おきくらいに、
アンプル内に薬液が残っていないかどうか、確認します。



ボトルがカラになっていても、アンプルの先に、薬液が
残っている場合があるので、ボトルを外して確認します。



アンプル内の薬液が、カラになり、薬液がすべて樹木に浸透していたら、アンプルの先を引き抜き、穴に、トップジンMペースト剤を注入します。



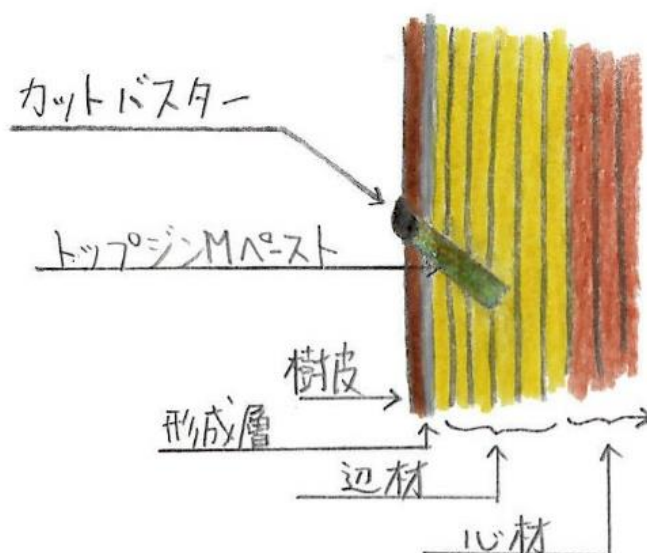


トップジンMペーストを注入後、カットパスターでフタをします。

カットパスターは、6mm程度の大きさに丸めて、穴に押し込むようにフタをします。

フタをする時に、後日、樹脂が流れ出るように、穴の下に針の穴くらいの隙間をあけておきます。

他の注入が完了した、アンプルも同じように処置をしていきます。





アンプルの抜き忘れや、注入後の処置がすべて適切にされたかどうか、確認をします。



確認後、カラのアンプルや、使用器具など、忘れ物の無いように、片付けをして、作業を終了します。

樹幹注入作業が完了です。



制作・編集 一般財団法人富田林市公園緑化協会

協力 シンジェンタ ジャパン株式会社
日産緑化株式会社

令和5年2月 発行